

戦時中の旧制中学

長島榮治（中四十三回）

長島さんは現在八十七歳、かくしゃくとして川中時代の思い出を語っていただきました。

校舎の思い出

戦争前は、尋常小学校が今の小学校で六年間の学制は今と同じでした。それが終わると、五年制の中学校に入学する人と、二年制の尋常高等小学校に進学する人に別れました。

川越市内の中学校は、川越中学、川越農蚕学校、川越工業学校、川越商業学校、川越高等女学校、私立の山村女学校がありました。

尋常高等小学校は今の第一小学校のところにありました。

校舎の思い出

川中に私が入学するとき、一組増えて四組になり一学年二百人の構成になりました。

校門を入ると、今も残る楠が迎えてくれて、右側が

当時としてはモダンなデザインのモルタル塗り外壁の講堂で、左側に校舎がありました。

建学当初からの木造二階建て校舎で、東端の二階には、特別大演習時に大正天皇が宿泊された施設が御座所として残されていて、普段は立ち入り禁止となっていました。

校舎の裏側は昔寄宿舎だった棟もあり、一階は柔道場、二階は配属将校の控え室として使っていました。その東側に剣道場としても使っていた雨天体操場があり、それから先がグラウンドになっていました。

グラウンドの先は簡単な生け垣がありその先に園芸部が道具置き場として使っていた小屋があり、周りは畑

になっていました。確か学校で借りるか何かして園芸部が作物を作っていたような気がします。



大戦前の川中の校舎（川越高校百周年記念誌より）

門を入れてすぐ右の場所に新築されました。それまでは、ご真影は校長室に飾ってありました。終戦後、喜多院の裏に移転されたようです。

学校生活

入学した頃は学生帽でしたが、次第に軍色が強くなり、服装もゲートルに編み上げ靴、戦闘帽という制服になりました。

学校には、配属将校がいてその下に軍事教練を指導する教官がいて、授業で行軍とか銃剣術とか、訓練をするわけです。年一回県から教練の査察に来るのですが、成績がよくないと叱責されるので、教官も生徒もかなり緊張しました。

私たちが三年生の時に寄付を集めて、天皇皇后のご真影を納める奉安殿が、校

などの仕分けをしました。集積所間の荷物を積んだトラックを人力で押して移動する作業をさせられました。女学生は上福岡の被服廠で軍服の縫製にかり出されていました。

また、満員電車で通勤するのですが、乗り切れないでデッキにぶら下がっていた同級生が、ホームの間に挟まれて亡くなるという痛ましい事故がありました。

授業は月に二度ほど中学で行われましたが、講演が多く授業という形ではなかったですね。

進学をしないでいると、徴用という形ですとそのまま被服廠で働かされるので、六割か七割は進学しました。高等学校や士官学校へ行く人もいましたが、私は薬学の学校に行きました。途中で兄が死んだので、途中で兄が死んだので、家業を継ぐために中退してしまいました。

まあ、大変な時代でした。